

## 1. 委員一覧（50音順に記載）



診療は、脳神経外科全般を対象にしています。特に脳腫瘍の診療に精力的に取り組んでいます。病状に応じた最適な診療を提供できるように心がけています。多くの臨床試験、治験を実施しながら、安全性と精度を高めた手術手技、新規化学療法レジメン、定位的放射線治療法の開発を行っています。新規の脳腫瘍治療を開発するために、脳腫瘍の発生と進展メカニズム、腫瘍免疫の分子機構の解析などの基礎研究も行っています。

荒川 芳輝  
京都大学脳神経外科 教授

石田裕二  
静岡県立静岡がんセンター 副院長兼小児科部長  
(準備中)



これまで小児科医として化学療法やトータルケアの面から脳腫瘍の治療に携わってきました。JCCG脳腫瘍委員会には2017年よりから参加しております。脳腫瘍委員会の活動を通じ、小児脳腫瘍に対する新規治療開発を行い、治療成績向上に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

磯部 清孝  
国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科 医員

市村 幸一

順天堂大学医学部脳疾患連携分野研究講座 特任教授  
(準備中)



2013年に現在の職場に赴任したのと時を同じくして小児がん拠点病院事業が開始となり、以来多くの脳腫瘍や脊髄腫瘍の治療に携わってきました。NPO 法人日本小児がん研究グループ(JCCG)脳腫瘍委員会での活動を通じて、小児脳腫瘍・脊髄腫瘍の治療成績の向上に貢献したいと考えています。また渉外・広報委員の一員として、JCCG 脳腫瘍委員会の活動をわかりやすく広報できるように努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

井原 哲

東京都立小児総合医療センター脳神経外科部長



私はこれまで成人・小児の脳腫瘍についての基礎研究や、臨床において手術や化学療法等の治療に従事してまいりました。その中で小児脳腫瘍の治療成績の向上を目指したいと思い、2025年よりJCCG 脳腫瘍委員会に参加させていただきました。JCCG 脳腫瘍委員として、小児脳腫瘍の有望な新規治療法の開発につながる基礎研究・臨床研究に参加させていただき、ぜひ治療成績の向上に貢献できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

大岡 史治

名古屋大学大学院医学系研究科脳神経外科 講師



岡山大学病院において、脳腫瘍に対する手術、放射線治療、化学療法を担当しています。また、脳腫瘍に対する新規治療開発を目指して、基礎研究から臨床試験への橋渡しなどを行ってきました。JCOG 脳腫瘍委員会、バイオロジー研究 WG のメンバーとして活動させて頂いています。小児脳腫瘍については、近年新たな治療標的なども開発されてきており、委員会での活動を通じて診療の向上に寄与できるように尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

大谷 理浩

岡山大学脳神経外科 研究准教授

大場 詩子

九州大学病院小児科 助教  
(準備中)



現在まで後期試験ワーキンググループ、摘出度判定判定委員会などの仕事に携わってまいりました。今まで中央診断や進行中の臨床試験に積極的に症例登録を行ってきましたので、これからも症例の集積に努めたいと思います。現在はバイオロジー委員会にも参加させて頂いておりますので、遺伝子解析、画像解析等の研究に加えて、cultured cancer cell の組織収集、新しい臨床試験の立案など施設を挙げて尽力していきたいと考えております。これからも本邦の小児脳腫瘍研究の発展に貢献したいと思いますので、宜しくお願い致します。

香川 尚己

大阪大学脳神経外科 講師

金澤剛二

日本大学医学部附属板橋病院小児科 助教  
(準備中)



このたび脳腫瘍委員会に新任として加入させていただきました、京都府立医科大学小児科の金山と申します。これまで小児がんの臨床に関わる機会を多く与えていただきましたが、臨床試験に患者さんを登録・治療するだけでなく、是非立案することにも携わりたいと考えこの度脳腫瘍委員会に参加させていただきました。また、研究面では、米国に2年間留学し、小児脳腫瘍に対する分子標的治療のターゲット探索について基礎研究を行って参りましたので、このような経験も活かしてゆければと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

金山 拓誉

京都府立医科大学小児科 特任助教



小児脳腫瘍の急性期外科治療、放射線化学療法の治療に携わってきました。また治療後の再発、二次性腫瘍、脳卒中、高次脳機能を含めた晩期障害についても自施設で多くの診療科、多職種チームで取り組んでいます。

しかし最近10年間で小児脳腫瘍医療は情報、経験の蓄積とともに実施すべき医療水準が飛躍的に向上し、一つの施設単独で取り組むことが難しくなっています。

診断における分子診断、新規治療薬の開発、高次脳機能障害の評価・介入などはJCCGを中心とした日本全国レベルでの連携が不可欠であり、JCCG脳腫瘍委員会の活動を通じてこれらの発展に貢献してゆく所存です。

金森 政之

東北大学病院脳神経外科 准教授

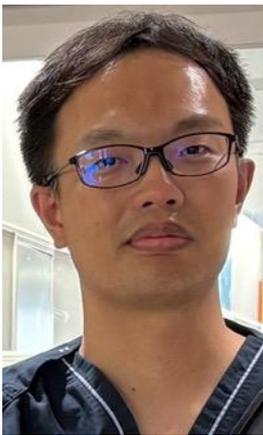


慈恵医大小児科に勤務しております。小児血液腫瘍を専門とし、当院では小児脳神経外科を有することから、日常的に多くの脳腫瘍症例に携わっています。本年度より脳腫瘍委員会に加入し、より専門的な立場から治療方針の検討にも関わらせていただくこととなりました。日々の診療を通じて、よりよい治療法の開発と、こどもたちとご家族にとって負担の少ない医療の実現を目指して取り

組んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

神尾 卓哉

東京慈恵会医科大学小児科学講座 講師



2016年より静岡県立こども病院で小児科医として、小児脳腫瘍の患者さんの診療に従事してきました。小児脳腫瘍は難治性のものも多く、新たな治療法や治療薬の開発が重要であると同時に、合併症を軽減する取り組みの必要性も強く感じています。2025年からJCCG脳腫瘍委員会に参加させていただくこととなりました。小児脳腫瘍の患者さんにより良い治療を届けられるよう、尽力して参りたいと思います。

川口 晃司

静岡県立こども病院血液腫瘍科 医長



私は神戸大学では悪性脳腫瘍を専攻し 2005 年、兵庫県立こども病院に異動してからは小児脳・脊髄腫瘍に対する外科的治療の主導、化学療法や陽子線治療の検討、緩和治療に従事して参りました。現在は摘出術を施行した症例における晩期合併症の評価にも力を入れています。2013 年 2 月より兵庫県立こども病院が厚労省が定める 15 小児がん拠点病院の一つに指定され、連携各科ときめ細やかな集学的治療を進め、他施設との連携を深めていくことで私の当院での経験症例数も 350 例を越えました。これらの臨床経験を元に今後の日本における治療、臨床研究、晩期合併症、緩和治療を支援して参りたいと思いますので、どうかお見知り置きの程よろしくお願い申し上げます。

河村 淳史

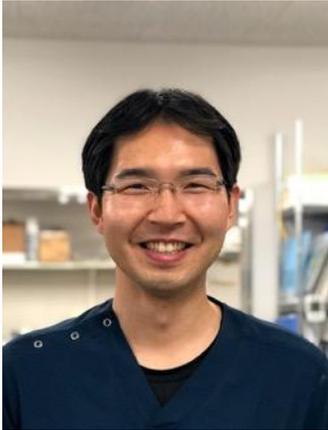
兵庫県立こども病院小児がん医療センター次長 兼 脳神経外科診療科長



小児科専門医、血液専門医、小児血液・がん指導医で、小児腫瘍医として成育で脳腫瘍や固形腫瘍の臨床にも長く携わってきました。脳腫瘍委員会には主に小児脳腫瘍の化学療法の視点で関わってきましたが、長期フォローアップの観点から、小児脳腫瘍の長期的合併症や移行医療にも関わっています。今年から広報・渉外担当になりました。どうぞよろしくお願い致します。

清谷 知賀子

国立成育医療研究センター小児がんセンター血液腫瘍科/長期フォローアップ科医  
長



小児科医として、脳腫瘍を含む小児がんの診療に携わるとともに、遺伝子解析による小児がんの分子病態の解明に取り組んでまいりました。基礎研究と臨床現場の橋渡しをできればと考えており、これまで培ってきた経験と知見を活かし、難治性の小児脳腫瘍に対する診断・治療法の最適化や新規治療の開発に貢献したいと考えております。一人でも多くの患者さんにご家族に希望を届けられるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

窪田博仁

京都大学医学部附属病院小児科 助教



当センターは早くから脳外科・血液腫瘍科・放射線科等が一体となって、小児脳腫瘍に対する集学的治療を実践してきました。小児脳腫瘍に対する臨床研究の立案・実行にも積極的に関与し、JCCG やその前身の1つであるJPBTCの臨床試験にも多くの症例を登録してきました。JCCG 脳腫瘍委員会の一員として、また運営委員会委員長として、今後も小児脳腫瘍に対する研究をさらに推進し、一人でも多くの子どもたちが健やかに治ることに貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

康 勝好

埼玉県立小児医療センター血液腫瘍科 科長



栃木県出身で、地元の自治医科大学を卒業後、地域医療勤務を経て、脳神経外科医となり、30年以上小児を中心とした脳腫瘍の臨床と研究に携わっています。JCCG脳腫瘍委員会ではこれまで上衣腫臨床研究で摘出度判定の取りまとめ役をしていましたが、引き続き画像診断委員会を担当することになりました。まずは、橋神経膠腫の画像診断や上衣腫の摘出度判定などが中心になりそうです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

五味 玲

自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児脳神経外科 教授



成人～小児の脳腫瘍に対する手術・集学的治療から新規治療開発を専門としています。JCCG脳腫瘍委員会では、上衣腫の新規臨床試験において研究代表者を担当しております。小児に好発する希少かつ難治の疾患に対して、全国一丸となって治療開発にあたるのが求められています。小児科・放射線科・病理等の先生方と共同で、治療成績の改善を目指して頑張ります。是非、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

齋藤 竜太

名古屋大学脳神経外科 教授



小児脳腫瘍は極めて多彩であり、その診断は非常に難解です。正確な診断は治療戦略の根幹を成し、患者さんの予後に直結します。私は病理医として、脳腫瘍の診断精度を高めるべく、病理組織学と分子解析を融合した統合診断に取り組んでいます。中でも、近年急速に発展している DNA メチル化分類は、先端技術として注目される一方で、現場での実装には課題も伴います。その臨床的有用性と限界を見極め、真に患者さんの役に立つ診断を追求することが私の使命です。一人でも多くの患者さんに最適な治療が届くよう、

脳外科・小児科の先生方と緊密に連携しながら、病理診断の限界に挑み続けています。

里見 介史

杏林大学医学部病理学教室 准教授



私は脳神経外科医で、小児から成人までを対象とした脳腫瘍の外科手術全般を専門にしています。2025 年から脳腫瘍委員会のメンバーに加わり、さらに画像ワーキンググループの共同代表を拝命しました（名古屋大学脳神経外科 大岡史治先生と）。小児脳腫瘍に関する画像解析研究の立ち上げに携わりつつ、小児脳腫瘍治療に貢献したいと考えております。

柴原 一陽

北里大学脳神経外科 准教授



私は脳腫瘍のゲノム解析・シーケンス解析を専門にし、最新技術を駆使して大規模データの解析を行っています。これまでに髄芽腫をはじめとし、新たな遺伝子異常の発見や分類法の提案などを行ってきました。このような大規模データを用いた包括的な解析技術は、脳腫瘍の臨床診断や基礎研究に欠かせません。これらの技術を通じて、日本の脳腫瘍診療に貢献し、世界でも誇れる基礎研究の成果を発信してい

きたいと考えています。

鈴木 啓道

国立がん研究センター研究所脳腫瘍連携研究分野 分野長

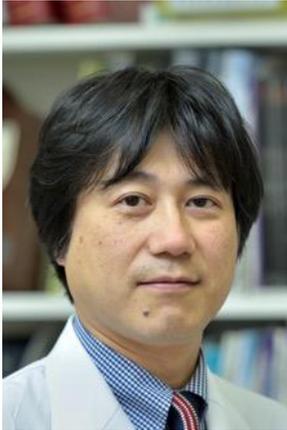


皆様こんにちは。現在、「びまん性内在性橋グリオーマ(DIPG)のレジストリ構築および緩和ケアの実態解明を目的とした多施設共同前方視的観察研究 JCCG DIPG-2023」の研究代表を努めております埼玉医科大学国際医療センター 脳脊髄腫瘍科の鈴木智成と申します。我々の施設の脳脊髄腫瘍科は脳神経外科のなかの脳腫瘍に特化した診療科で脳腫瘍全般の治療を行いますが、私は特に小児脳腫瘍の診療に尽力しています。同じ病棟に小児腫瘍科があり、小さなお子

さんの診療や強い化学療法を行う際には協力して治療にあたっています。小児脳腫瘍の治療発展に貢献できればと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

鈴木 智成

埼玉医科大学国際医療センター 小児脳脊髄腫瘍科 教授



私は脳腫瘍全般の集学的治療を専門としていますが、特に脳腫瘍の外科手術を担当しています。小児脳腫瘍は頻度が少なく、多くの外科手術を経験している医師・病院は決して多くはありません。JCCGの活動を通じて、日本全国の小児脳腫瘍に関する経験や世界中の情報を共有できれば良いと考えています。また、まだまだ最適な治療法の見つかっていない病気に関してはJCCGから新たな治療法を確立できるよう努力していきたいと思っています。

園田 順彦

山形大学脳神経外科 教授



東大病院では先進的な画像技術や手術支援技術を用いた正確な手術、ゲノム解析による迅速な診断とオンコパネル検査による最適な治療方針の推奨、従来の治療にとどまらず低副作用を目指した標的治療を行っております。小児科、脳外科、放射線科を含めた厚いネットワーク内での診療と共に、東大病院ならではの先端的な研究機関との連携を利用した最適な治療を進めております。私もその一員として患者さんの日々のケアや治療の推進、またご家族へのサポートに努めております。東大病院で治療を受けて元気に回復していく患者さんが1人でも多くなるよう、これからも頑張っております。

高見 浩数

東京大学医学部附属病院脳神経外科 助教



小児血液腫瘍医として、化学療法を中心に脳腫瘍患者の診療に従事してきました。治療中や治療後に合併症を抱える子ども達と向き合う中で、少しでも脳腫瘍治療の発展に貢献したいという思いから、委員に応募いたしました。若輩者である私でも、臨床試験の円滑な遂行と新規臨床試験の立案に積極的に関与し、小児脳腫瘍治療のエビデンス構築に貢献

できればと考えています。また、委員会を通して学んだ最新知識を所属施設のスタッフと共有し、患者様とご家族に還元できるよう心がけていきます。

竹内 正宣

横浜市立大学附属病院小児科 助教



小児科医として小児がん患者さんを診療させていただく中で、小児脳腫瘍診療は、小児がん疾患の中でも診断が難しく、患者さんは治療中・治療後も多くの困難に向き合わなければいけない疾患だと感じております。脳腫瘍委員会では、多くの先生が常に「患者さんを第一に」考え、より良い治療法の開発を目標に精力的に活動されており、日々刺激をいただいております。微力ですが、私自身も少しでも貢献できるように努力いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

田中 真理

広島大学病院小児科



静岡こども病院、名古屋大学附属病院での勤務を経て、現在は静岡がんセンター小児科で主に骨軟部腫瘍や脳腫瘍の診療を行っています。JCCG脳腫瘍委員会の中では、上衣腫臨床試験の立ち上げメンバーとして活動しています。全国の小児脳腫瘍の治療成績の向上に少しでも寄与できるよう力を尽くす所存です。がんと診断されたお子さんやそのご家族が、辛い気持ちを抱えながらも前を向いて進んでいけるよう、その支えになりたいと思っています。

谷口 理恵子

静岡がんセンター小児科 医長



同施設で小児血液腫瘍医としてのキャリアを開始し、国立がん研究センター中央病院で2年間の修練医を経て現職となっております。JCCGとしては遺伝性腫瘍委員会を兼任しております。遺伝性腫瘍に興味を持ち、臨床遺伝専門医と遺伝性腫瘍専門医の取得を目指しています。また、がんゲノム医療に積極的に取り組んでおり、C-CATにもキュレーターとして関わらせていただいております。日本の小児脳腫瘍診療に、内科の立場から少しでも貢献できるように日々研鑽を積んでゆく所存です。よろしくお願ひします。

谷村 一輝

大阪市立総合医療センター小児血液腫瘍科 医長



東京女子医科大学脳神経外科は、小児脳腫瘍に対する外科的なアプローチについて、脳神経外科医の立場から関わらせていただきたいと思います。

千葉 謙太郎

東京女子医科大学脳神経外科 助教



横浜市立大学小児科の辻本と申します。これまで小児がんの研究、診療に携わってきました。脳腫瘍では、ゲノム異常に基づいた治療・診断、新規治療の開発、臨床試験の立案に積極的にかかわっていかねばと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

辻本 信一

横浜市立大学小児科 助教



当初は、成人の悪性神経膠腫、脊髄脊椎疾患を中心に診療しておりました。大学院卒業後、留学の機会を頂き、シカゴの富田忠則先生の下で Children's Memorial Research Center でマウスモデルを用いて、葉酸不応性の神経管閉鎖不全に関する研究を行ってきました。留学から戻ると、こども病院で小児神経外科の診療に携わるようになり、その後は、大学に戻り、小児神経外科も私のサブスペシャリティの一つとなりました。今後は、小児脳腫瘍委員会の先生方の豊富な Neuro-

Oncology に関する知識やご経験を学ばせていただきつつ、小児脳腫瘍の臨床研究に関して少しでもお役にたてるように邁進してまいります。今後ともご指導どうぞよろしくお願い申し上げます。

鶴淵 隆夫

筑波大学医学医療系 脳神経外科 講師



1998年に名古屋大学医学部を卒業後、日米で小児科および小児血液腫瘍科の研修を行い、米国の小児脳腫瘍専門医となり、現在の施設で小児脳腫瘍の診療と研究に携わっています。JCCG 脳腫瘍委員会の前委員長で、委員会の立ち上げ、脳腫瘍の中央病理・分子診断システムの構築、上衣腫・髄芽腫・AT/RT・胚細胞腫瘍の後期試験すべてにかかわっています。現在は小児脳腫瘍および神経線維腫症1型の新規治療法の臨床開発が一番の研究テーマで、複数の治験や先進医療の責任医師を務めています。また、脳腫瘍委員会の国際委員を拝命しました。

JCCG 本体では、胚細胞腫瘍委員、企画広報委員(副委員長)、総務委員を務めています。

寺島 慶太

国立成育医療研究センター小児がんセンター脳神経腫瘍科 診療部長



宮崎大学医学部附属病院で小児血液・腫瘍の子どもたちの診療に従事しております。脳腫瘍の患者さんを診療する中でその治療の困難さや治療後の合併症の多さを実感し、少しでも改善させたいという思いで2025年から脳腫瘍委員会に参加させていただく事になりました。まだ、経験は浅いですが、少しでも小児脳腫瘍の医療向上に貢献できるように精進していきます。

永澤 俊

宮崎大学医学部附属病院小児科 助教



脳腫瘍委員会の中では、JCCG 小児固形腫瘍観察研究、中央診断のための脳腫瘍の遺伝子解析を主に担当しています。現在のWHO 脳腫瘍の分類の基準にもとづく診断のためには、腫瘍の変異や融合遺伝子の検索、メチル化解析が欠かせない場合も少なくありません。解析の結果は、診断だけでなく標的治療の選択や、より精度の高い予後予測につながる場合もあります。JCCG 施設や中央診断事務局、研究室、病理診断医の先生と協力しながら、この領域に少しでも貢献できればと考えています。

室、病理診断医の先生と協力しながら、この領域に少しでも貢献できればと考えています。

中野 嘉子

東京大学医学部附属病院小児科 助教



この度、JCCG 脳腫瘍委員会のシーズ開発 WG および DIPG 観察研究 WG のメンバーに加わりました。私は脳外科医であり、小児および成人悪性脳腫瘍の診療に従事しています。また、小児悪性脳腫瘍の橋渡し研究を行うべく小さいラボを運営しており、そのために稀少な脳腫瘍の培養細胞株や PDX モデルの樹立や治療実験に力を注いでいます。小児脳腫瘍患者さまにより良い治療を提供すべく皆様と一緒にあれこれ考えて参りたいと思います。

棗田 学

新潟大学 脳研究所 脳神経外科 特任准教授



東北大学病院では脳神経外科と小児科が協力して、多くの小児脳腫瘍患者さんの治療を行っており、私は主に外来での化学療法と治療後フォローアップを担当しています。JCCG 脳腫瘍委員会では、DIPG 前向き観察研究の事務局を担当しています。日本中の小児脳腫瘍診療に携わる人達が連携し、患者さんがどこにいても良い診療が受けられるよう、脳腫瘍委員会の活動を通じて貢献していきたいです。

新妻 秀剛

東北大学病院小児科 講師

小児科の立場で、脳腫瘍の治療に携わせて頂いています。診断、化学療法、分子標的薬の適応などを主に担当し、また、集学的治療が必要となる脳腫瘍の治療において、脳神経外科・放射線科先生方と一つのチームとして治療をお届けできるよう心掛けております。少しでも患者様・御家族のお力になれるよう、精進して参ります。

(No Photo)

花木 良

三重大学小児科 外来医長



私は小児科医ですが、治癒が困難であったり、治療後の経過も難しい患者さんがまだまだ多い小児脳腫瘍の診療を少しでも改善したいという思いで、小児がんの中でも小児脳腫瘍に対する診療、研究を中心に今まで仕事をさせて頂いております。現在は埼玉県立小児医療センターにて勤務しております。2019年から脳腫瘍委員会に参加しており、さらなる小児脳腫瘍診療の向上に貢献できればと考えております。

福岡 講平

埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 医長



筑波大学附属病院で勤務をしている小児科医です。専門領域は小児の血液、がん、遺伝性疾患です。普段は小児血液・がん専門医としての診療と人類遺伝専門医として遺伝領域の診療を行っています。また当院は陽子線治療施設があることから、陽子線を必要とする患者様を多く受け入れています。研究領域では主として小児がんの胚細胞系列遺伝子解析、小児がんサバイバーの問題に取り組んでいます。小児がんの長期的な生存率は飛躍的に改善しました。その中でも小児脳腫瘍は未だ満足のいく成績の得られない疾患が複数存在しています。脳腫瘍を持つ子どもたちの治療成績の向上と幸せのために微力ながら助力していきたいと考えています。

福島 紘子

筑波大学医学医療系小児科 講師



放射線治療を担当している前林です。脳腫瘍などの固形腫瘍の治療では、根治を期待するために放射線治療が必要となることが多いです。放射線治療は臓器を摘出することなく治療が可能であるため、同じ範囲の手術に比べるとQOL(Quality of Life)の低下が少ないと考えられています。しかし、小児の場合には、放射線治療が行われることで成長や発達に問題が生じることがありますので、この脳腫瘍委員会で治療効果を落とさずに、できるだけ放射線治療の照射範囲や投与線量の低減を目指した治療開発を検討していきたいと考えています。

前林 勝也

日本医科大学医学部附属病院放射線科 臨床教授



東京都立小児総合医療センターにて、小児血液・腫瘍科医として、多くの小児脳腫瘍の患者さんの診療に携わっております。

脳腫瘍委員の一員として、脳腫瘍と闘う子どもたちのために、治療開発の分野で少しでも貢献できるよう努めてまいります。

松井 基浩

東京都立小児総合医療センター血液・腫瘍科 医員

盛田 大介

長野県立こども病院血液腫瘍科 副部長  
(準備中)



2019年より本委員会委員を務めさせていただいています。脳腫瘍全般の治療に携わっていますが、特に小児脳腫瘍に対しては、脳外科医として働き始めて以来、深くかかわってきました。また、脳外科単科ではこの分野の治療進歩は限られると考え、診療科の垣根を超えたチーム医療の構築にも力を注いできました。小児脳腫瘍は一人一人の患者さんが特別であり、どんなにたくさんの経験をしても、次の患者さんでまた新たな壁にぶつかる、ということの繰り返しです。常に知識を更新して、小児脳腫瘍患者さんに最善の治療を提供できるよう、努力しています。

山口 秀

北海道大学脳神経外科 診療准教授



私は普段多くの小児がんの子ども達の診療に携わっていますが、脳腫瘍はその中でも特に難しい疾患です。診断や治療の困難さに加えて、子どもたちは治療後も認知機能障害や内分泌障害などの様々な困難に向き合う事になるため、専門家だけでなく、多くの人の支えが必要です。これまでの JCCG の活動を通じて小児科・脳外科・放射線科・病理診断科など治療に関わる専門家の連携が進みました。今後は治療後のフォローアップに関わる専門家や、多くのご家族、そして我々の活動をご支援いただける一般の方々との連携を広げていく事が重要です。脳腫瘍の子どもたちに、いつ

も最新の診断・治療・支援を届けられるよう尽力して参りたいと思います。

山崎 夏維

大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科 医長



小児脳腫瘍の手術を専門とします。手術、放射線治療、化学療法、分子標的療法、免疫療法、緩和治療、支持療法などの集学的治療の方針を患者さんの状態に合わせて相談しながら決定します。小児がんサバイバーの晩期障害、脳の変化やホルモン分泌とその対策について研究を続けています。神経画像診断に詳しく、腫瘍と非腫瘍性疾患の鑑別や腫瘍の再発診断を最新の画像診断技術を駆使して行います。小児脳腫瘍の治療成績を向上させるため、成人癌の知識を勉強することを心がけ、臨床試験のプロトコール作

成、治療開発を学んできました。JCCG でもそれらの知識を活用して小児脳腫瘍の治療成績を向上させるためのチームの一員として努力します。

山崎 文之

広島大学脳神経外科 准教授

山本 哲哉

横浜市立大学附属病院脳神経外科 主任教授  
(準備中)

湯坐 有希

東京都立小児総合医療センター血液・腫瘍科 部長  
(準備中)



小児脳腫瘍を含めた脳腫瘍の手術治療、基礎研究を専門としています。現在の JCCG の脳腫瘍委員会では、シーズ開発 WG で山口先生をサポートする立場で活動しております。当院でも小児科の先生と常にコミュニケーションを取りながら小児脳腫瘍の治療を行っていますが、JCCG でも小児科医と脳神経外科医が自由に議論できる環境で、小児脳腫瘍の治療成績向上を目指して活動していきたいと思えます。

吉本 幸司

九州大学脳神経外科学分野 教授